

蚊学教室 プログラムの学習目標

開会のあいさつ

・あいさつの内容に「熱帯病」や「世界」のお話を盛り込んでいただき、イベントで学んで欲しいことを明確にする。

野外観察

学習目標：野外において、蚊がどのような環境に発生するかを知る

グループ別目標

低学年：キャンパス内で蚊の発生源を探し、蚊の卵と幼虫を見つける（判別する）

高学年：ヒトスジシマカのボウフラが発生しやすい発生源の種類がわかる

中学生：ヒトスジシマカが発生しやすい環境を考察できる

顕微鏡観察

学習目標：ヒトを刺す代表的な蚊の違いを見分ける

グループ別目標

低学年：様々な昆虫の中から蚊を見分けられる、オスとメスが見分けられる。

高学年：ヒトスジシマカの形態的特徴がわかる、オスとメスが見分けられる。

中学生：高学年目標 + 蚊と他の昆虫の違いが詳しくわかる

ミュージアム見学

学習目標：世界にどのような熱帯病（蚊媒介性感染症）があるかを知る

グループ別目標

低学年：蚊が媒介する代表的な感染症5つ（マラリア、フィラリア、デング熱、ジカ熱、日本脳炎）の名前がわかる

高学年：5つの感染症の症状、特徴（下敷きのアイコンに書いてある範囲を目安に）がわかる

中学生：5つの感染症について、それぞれ世界のどこで流行しているかがわかる

展示

学習目標1：Personal protectionの様々な方法を知り、正しく行えるようになる

学習目標2：世界のマラリア流行地でどのような対策がとられているかを理解する

蚊学教室 実際のコンテンツ

(前提)

『世界モスキートデイ』が期待すること

- ・ イベント参加者の感染症・熱帯病に関する知識とヘルスリテラシーが向上する
- ・ イベント参加者である子どもたちの蚊および熱帯病に対する知識を増やし、更なる興味を引き出すことにつながる

1) 野外観察

ブースリーダー：砂原先生

時間：30 分間

場所：スタート地点（熱帯医学ミュージアム前）→ キャンパス内

学習目標：野外において、蚊がどのような環境に発生するかを知る

グループ別目標

低学年：キャンパス内で蚊の発生源を探し、蚊の卵と幼虫を見つける（判別する）

高学年：ヒトスジシマカのボウフラが発生しやすい発生源の種類がわかる

中学生：ヒトスジシマカが発生しやすい環境を考察できる

<<実際の活動>>

#導入：蚊の幼虫（ボウフラ）は水中に発生することを説明する。

#ワーク準備：忌避剤を使用する。

#ワーク：

- ・ キャンパス内に仕掛けられたオビトラップを探しに行く。
- ・ キャンパス内の雨水ますの水を観察する。
- ・ どのような場所に置かれたトラップで幼虫が多く発生するかを観察する。

#結論：発生源の特徴をまとめ、それを減らすことが重要だと説明する。

※当日使用する道具など：虫眼鏡、虫とり網×3、カクイカ（展示）

2) 顕微鏡観察

ブースリーダー：今西

時間：30 分間

場所：TMGH 実習室

学習目標：ヒトを刺す代表的な蚊種の違いを見分ける

グループ別目標

低学年：様々な昆虫の中から蚊を見分けられる、ヒトスジシマカ成虫の形態的特徴がわかる

高学年：ヒトスジシマカとアカイエカの形態的な違いがわかる

中学生：高学年目標 + 蚊と他の昆虫の違いが詳しくわかる

<<実際の活動>>

#導入：なぜ「蚊の種類」に注目するのか（蚊種によって、疾病媒介能や吸血嗜好性などが異なること）を説明する。蚊の形態的な特徴（翅の枚数、口吻の存在）を説明する。

#ワーク：

- ・ 様々な昆虫の入った容器から蚊を見つける
- ・ ヒトスジシマカとアカイエカの翅、脚、口吻に注目し、観察シート（蚊の絵が描かれていて、翅や脚の部分が白抜きになっている）に塗り絵のようにスケッチしていく。
- ・ （時間があれば）幼虫と蛹の生体を配り、泳ぎ方の違いを観察する。

#結論：蚊と他の昆虫の形態的特徴の違いを再確認する。観察した蚊種の代表的な形態的特徴についてまとめる。

※当日使用する道具：顕微鏡、ピンセット、シャーレ、ヒトスジシマカ成虫、アカイエカ成虫、蚊以外の昆虫、観察シート、（鉛筆・消しゴム）、蚊の幼虫

3) ミュージアム見学

ブースリーダー：堀尾先生、嶋田さん

時間：30 分間

場所：熱帯医学ミュージアム

学習目標：世界にどのような熱帯病（蚊媒介性感染症）があるかを知る

グループ別目標

低学年：蚊が媒介する代表的な感染症5つ（マラリア、フィラリア、デング熱、ジカ熱、日本脳炎）の名前と特徴（下敷きのアイコンに書いてある範囲を目安に）がわかる

高学年：5つの感染症の症状、予防・治療方法がわかる

中学生：5つの感染症について、それぞれ世界のどこで流行しているかがわかる

<<実際の活動>>

#導入：

#実際の活動

- ・ 5つの感染症について、ミュージアムに展示されたパネルや模型を使いながら解説する（20分、嶋田さん）
- ・ 熱帯医学ミュージアムが所蔵する魅力的な展示品について解説していただき、参加者の質問に回答していただく（10分、堀尾先生）

#結論：

※当日使用する道具：病原体や薬のマーク（下敷きと連動したもの）

4) 展示ブース1

担当：大日本除虫菊様

時間：設定なし

場所：TMGH 1 階ロビー

学習目標：Personal protection の様々な方法を知り、正しく行えるようになる

5) 展示ブース 2

担当：Malaria No More Japan 様

時間：設定なし

場所：TMGH 1 階ロビー

学習目標：世界のマラリア流行地でどのような対策がとられているかを理解する

モスキートデイ チューターマニュアル

チューターの目的

- 1 大原則：参加者の安全を守る。
- 2 参加者を時間通りに指定の場所（ブース）に引率する。
- 3 （可能であれば）参加者の理解、満足度の向上に努める。疑問を解決するよう取り組む。

チューターは各グループに最低1名おく。

点呼確認をしてください。

傷病者の発生などあれば、必ず本部に連絡すること。

サブチューター役はチューターのサポート役、写真撮影してください。

持ちもの：

チューターマニュアル

参加者名簿（当日お渡しします。終了後回収）

当日のタイムテーブル

携帯電話など（本部連絡用）

筆記用具、時計

点呼：必ずそれぞれの実習前後は人数確認する。

屋外実習前は忌避剤の使用、水分摂取と帽子の着用をすすめる。

屋外実習後も水分摂取をすすめる。

休憩時間・移動時間

休憩時間前後は人数確認をする。

特に低学年児にはトイレにできるだけ行かせるようにすすめる。

実習中、お手洗いに行く際は迷子にならないか確認してください。

その他 去年の例：

もしも名簿にない子どもが参加している場合（参加者の友人またはきょうだい）、
「さりげなく」名前を確認して、本部に間違いのないようにテキスト（メール等）で伝える。

修了証発行準備のため。

（2016年度は運営委員会実行グループスタッフが個人的に、万が一の傷病者のための
ハイドロコロイド絆創膏とガーゼを本部に用意した。運営委員会として準備することを
要検討。）